

令和 4 年 3 月 3 0 日

令和 3 年度 特別の教育課程の実施状況等について

新潟県		
カリキュラム開発拠点校	管理機関名	設置者の別
新潟県立三条高等学校	新潟県教育委員会	公

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

カリキュラム開発拠点校	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
新潟県立三条高等学校	www.sanjou-h.nein.ed.jp	同左

※結果公表に関する情報について、ウェブ上で公開している場合は公開しているウェブページの URL を記入すること。ウェブ以外で公開している場合は、公開している情報を閲覧できる場所・方法を適宜記入すること。

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

概要 地域課題を踏まえながら、グローバルな課題と共通する SDGs 達成に向けて、地域と協働しながら解決策を探究し、発信・行動する力を育成するための教科・科目を設定する。文系理系の別にかかわらず生徒全員が履修する。

対象生徒 令和 3 年度入学生

教科名 「WWL」

科目名 ①「グローバル探究」、②「WWL 情報科学」、③「SDGs 世界史」

詳細

①「グローバル探究」(総合的な探究の時間の代替(3単位・各学年1単位履修))
次のア～ウにより、「地場産業」、「農業・食料安全保障」、「環境」を基本テーマとして、SDGs 達成に向け、課題研究活動を行う。

ア グローカルフィールドワーク (Glocal Fieldwork: GFW)

(1 学年) グループで地場産業や農業法人などの現地研修を行い、それぞれの現状・課題、世界との関係、起業事例、環境への配慮等を学び、成果をクラスで共有する。

(2・3 学年) 課題研究時にテーマに関係する場所・対象を訪れ、調査・研究する。

イ WWL 特講 (1 学年～3 学年前半、月 1 回程度及び夏季集中実施)

大学教員による現代社会・現代科学に関する授業(様々な地域課題、SDGs、イノベーション、デザイン思考、生命工学、データサイエンス、防災技術など文理にわたる内容)

ウ 課題研究 (Project Based Learning: PBL) (1 学年～3 学年)

ア、イで学んだことを踏まえながら、生徒がチームを組み、自ら課題を設定し、その解決に向けて研究活動を行い、課題解決策をまとめる。その際、大学、地元企業や研究機関等から指導を受ける。課題解決策は地域と協働して実行し、その成果を検証する。また、これらの研究成果は論文にまとめ、高校生国際会議等で発表する。

②「WWL情報科学」（「情報の科学」の代替（1学年2単位履修））

「情報の科学」の学習を基にしながら、ビッグデータ分析・統計処理を含めた最新のデータサイエンスを加え、新潟大学理学部と連携してカリキュラム開発する。オンライン授業やe-learningに、モバイルWi-Fiやタブレット端末を組み合わせ、場所を選ばず高度な学びを活用するTTについて実践研究する。また、グローバル探究に係るデータ解析等、課題解決に関連した内容とする。

③「SDGs世界史」（「世界史A」の代替（2学年2単位履修））

「世界史A」の学習を基にしながら、近現代の地理的条件・政治経済等の中でSDGsや新潟の地域課題に関連する内容を加え、新潟県立大学と連携してカリキュラム開発する。WWL情報科学と同様に、遠隔授業によるTTについても実践研究するとともに、グローバル探究で設定した課題の背景や関係する課題の把握等、課題解決に関連した内容とする。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本事業では、拠点校において、地域課題の解決策を探究し、発信・行動することで、SDGs達成に寄与する人材を育成することを目的とし、学校設定教科「WWL」における学校設定科目「グローバル探究」を中心とした探究学習を実践する。この探究学習の基盤となる知識や資質・能力を育成するために、必履修科目「情報I」及び「世界史A」を代替し、探究学習の推進に資する学校設定科目「WWL情報」及び「SDGs世界史」を設置する必要がある。

(3) 特例の適用開始日

令和3年4月1日

(4) 取組の期間

令和6年3月31日まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

①特別の教育課程に基づく教育を実施するための実施体制（校務分掌等）

校務分掌に「WWL事業部」を新たに設置した。

②指導計画及び実施している授業の内容（学年、ねらい、単元名、指導過程の概略等）

○「グローバル探究」（総合的な探究の時間の代替（1学年1単位履修））

次のア～ウにより、「地場産業」、「農業・食料安全保障」、「環境」を基本テーマとして、SDGs達成に向け、課題研究活動を行った。

ア グローバルフィールドワーク（Glocal Fieldwork: GFW）

(7) 実施計画

グループで地場産業や農業法人などの現地研修を行い、それぞれの現状・課題、世界との関係、起業事例、環境への配慮等を学び、成果をクラスで共有する。

(1) 授業の内容

全国高校生フォーラムに参加する生徒が、課題研究に関係する地元企業を訪問し、研究の進捗に係る調査を行った。

イ WWL特講

(7) 実施計画

大学教員による現代社会・現代科学に関する授業（様々な地域課題、SDGs、イノベーション、デザイン思考、生命工学、データサイエンス、防災技術など文理にわたる内容）

(1) 授業の内容

大学教授等による特別講義を10回実施した。

(例) 6月16日「地域の産業・経済における現状と課題」

新潟県立大学国際経済学部教授

12月1日「2030年までに達成すべきSDGsとは

～長岡技大のSDGs活動～」

長岡技術科学大学国際産学連携センターUEA

12月8日、10日「探究活動の進め方ーテーマ設定と実証方法ー」

新潟大学創生学部教授

ウ 課題研究（Project Based Learning: PBL）

(7) 実施計画

ア、イで学んだことを踏まえながら、生徒がチームを組み、自ら課題を設定し、その解決に向けて研究活動を行い、課題解決策をまとめる。その際、大学、地元企業や研究機関等から指導を受ける。課題解決策は地域と協働して実行し、その成果を検証する。また、これらの研究成果は論文に

まとめ、高校生国際会議等で発表する。

(1) 授業の内容

5月	WWL ガイダンス
6月	3～5人のグループで、研究課題を設定
7月～11月	課題研究、調査活動、発表資料作成
9月	探究テーマのポスター作成
11月30日	1学年分野別発表会
12月24日	1学年探究発表会
1月～2月	大学教授による指導・助言
2月10日	2学年分野別発表会に参加
3月16日	1・2年生合同ポスターセッション

上記イのWWL特講及びウの課題探究については、学習活動の進捗をふまえて修正した点はあるが、計画に従って実施できた。アのグローバルフィールドワークについては、全生徒ではなく、一部のみの実施にとどまった。現地研修の受入について、人数や時期、方法について、新型コロナウイルス感染症の影響により、企業・事業所との調整がつかなかったことが要因である。

○「WWL 情報科学」（「情報の科学」の代替（1学年2単位履修））

(ア) 実施計画

「情報の科学」の学習を基にしながら、ビッグデータ分析・統計処理を含めた最新のデータサイエンスを加え、新潟大学理学部と連携してカリキュラム開発する。オンライン授業やe-learningに、モバイルWi-Fiやタブレット端末を組み合わせ、場所を選ばず高度な学びを活用するTTについて実践研究する。また、グローバル探究に係るデータ解析等、課題解決に関連した内容とする。

(イ) 授業の内容

通年

「情報の科学」で取り扱う事項及び問題解決とモデル化

9月～11月のうち、週1回程度

探究活動における情報ツールの実践演習（WEB検索による情報収集、ワードとエクセルを使用した情報整理、パワーポイントを使用した発表スライド作成等）

外部講師を活用したビッグデータ分析・統計処理を含めた最新のデータサイエンスについての講義は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、大学等との日程や実施方法についての調整がつかず、実施できなかった。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
 実施していない

<特記事項>

ホームページに掲載するとともに「地域の声を聞く会」「学校評議員会」等で情報提供を行っている。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

SDGs達成を目指し、希望に満ちた未来を創る『提言・挑戦型』リーダー育成にむけて、核となる学習活動としてグローバル探究における探究活動を位置付けている。生徒は、グループ活動の中で自ら課題を設定し、情報を集め、分析し、グループ内で討論し、一定の結論を導いた。時間的な制約や知識、検証方法の不充分さを探究活動発表の際に指摘されることはあったが、従来の教育課程における探究活動に比して、課題研究を行う力の知識、検証方法についての向上を認める。

1学年の成果が2学年の探究活動において、『提言・挑戦型』の提案や仮説検証に十分に活かされると考えている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

探究活動は、学習に対する生徒の主体的な態度育成の核になるものである。その探究活動を学校設定科目として重点的に取り扱うことは、地域のリーダーを輩出し、その育成を期待されている当校の教育に多大な効果をもたらすものと捉えている。今後も工夫と改善を続けていきたい。

5. 課題の改善のための取組の方向性

「グローバル探究」（総合的な探究の時間の代替（1学年1単位履修））におけるグローバルフィールドワーク（グループでの地場産業や農業法人などへの現地研修）の実施については、事業協働機関である三条市商工会議所及び燕市商工会議所と連携し、一事業所あたりの参加人数、時期、オンラインを含めた研修方法等について柔軟に検討する。

「WWL情報科学」（「情報の科学」の代替（1学年2単位履修））における、外部講師を活用したビッグデータ分析・統計処理を含めた最新のデータサイエンスに関する講義については、来年度「グローバル探究」の時間に、事業協働機関である新潟大学や長岡科学技術大学、または、新潟県統計課等と連携し、オンラインにより実施する。